



つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

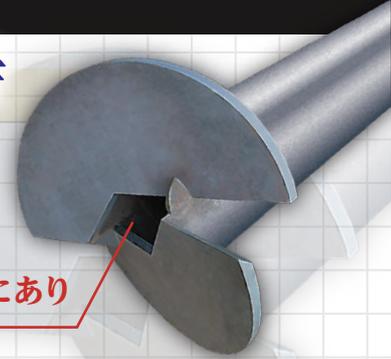
e-pile next 人に、地球に、やさしい再生可能な「循環型杭工法」
 国土交通省大臣認定工法

新たに生まれ変わったe-pile next工法

- 新:国土交通大臣認定
 - ・砂質地盤(礫質地盤を含む) TACP-0641
 - ・粘土質地盤 TACP-0642
- 新:日本建築センター 基礎評定(引抜支持力)
 - ・BCJ評定-FD0540-02
 - ・砂質地盤、礫質地盤、粘土質地盤

- 国土交通省「NETIS」
 - ・登録番号:KT-160071-A
- 日本環境協会
 - ・エコマーク認定 08 131022号

全ての鍵は杭先端にあり



基礎ぐい用高張力鋼管

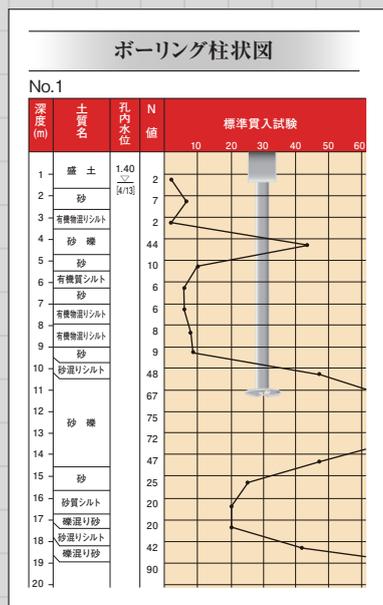
590材は、国土交通省より指定建築材料として大臣認定を受けた基礎ぐい用高張力鋼管です。水平抵抗を大きく受ける杭頭上部に590材を取り入れることで、より経済性を高めることができます。

杭材の許容基準強度

- F: 杭材料の許容基準強度 (235N/mm²) ※STK400
- 杭材料の許容基準強度 (325N/mm²) ※STK490
- 杭材料の許容基準強度 (440N/mm²) ※590材(大臣認定品)

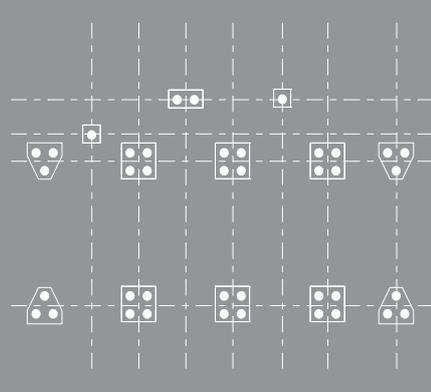
比較設計例

【施工地】神奈川県某所
 【用途】共同住宅
 【構造】鉄筋コンクリート造地上6階
 【建築面積】1,410m²



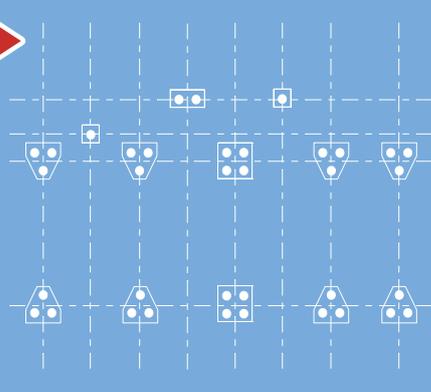
設計例-STK490

杭径	Φ267.4mm
肉厚	16.0mm~19.0mm
材質	STK490
拡翼径	Dw800~Dw600
杭長	10.0m
本数	40
経済性	1.00



設計例-590材

杭径	Φ267.4mm
肉厚	12.7mm
材質	590材
拡翼径	Dw800~Dw600
杭長	10.0m
本数	36
経済性	0.86



国土交通省ホームページから「適正な工期設定等による働き方改革の推進に関する調査」の結果が発表されました。

建設業の働き方改革、特に民間工事における取組を強化していく中で、工期設定等の実態について調査を行う「適正な工期設定等による働き方改革の推進に関する調査」が実施され、その結果が公表されました。

調査対象	主な調査結果	回答企業数
<建設企業> 建設業法第27条の37の規定に基づく届出団体(111団体)の各団体会員企業 <発注者> 電気・鉄道・住宅・不動産業界の大手企業42社	●注文者から提案された工期について 、「妥当な工期の工事が多かった」と回答した建設企業は 66.6% であったものの、「短い工期の工事が多かった」は 29.2% 、「著しく短い工期の工事が多かった」は 1.6% でした。 ●一方で 、平均的な休日の取得状況については、「4週6休程度」が 44.1% で最も多く、「4週8休以上」は 8.6% にとどまりました。 ●発注者の属性別にみると 、個別工事の工期設定について「著しく短い工期の工事だった」と回答した建設企業の割合は、小売(44.3%)・不動産業(38.4%)・学校教育(38.1%)などが 全体平均(26%)よりも高かったです 。また、実際に取得できた休日については、「4週8休以上」と回答した割合は、小売(4.3%)・不動産業(4.6%)・医療・福祉(5.3%)・住宅メーカー(5.6%)などで 全体平均(11.0%)を下回りました 。(数値は工期変更がなかった工事の値) ●請負階層別にみると 、「(著しく)短い工期の工事が多かった」と回答した建設企業の割合は、全体では 30.8% であるが、一次下請工事を主とする企業では 36.8% 、二次以下の下請工事を主とする企業では 44.9% となっており、 請負階層が下がるほど短い工期を要求される傾向にありました 。	<建設企業> 1,933社 (うち、有効回答企業数1,471社) <発注者> 42社(すべて有効回答)
調査時点 令和4年1月1日現在 (令和2年9月以降に請け負った工事)		 ▲国土交通省HP ※詳細は国土交通省ホームページをご覧ください。
調査項目 主に民間工事について、工期設定にあたっての受発注者間の協議の有無、工期の適正性、工期変更の理由、工期変更に伴い増加した工事費の負担、休日の取得状況、働き方改革・生産性向上に向けた取組など		

ワンポイント 健康コラム

熱中症警戒アラートに気を付けて!



熱中症による救急搬送者数は増加傾向にあります。特に、熱中症警戒アラートが発表されている日には熱中症になりやすく、救急搬送者数が多くなる傾向があるそうです。

神奈川県HPより

熱中症警戒アラートとは・・・熱中症の危険性が極めて高くなると予測された際に、危険な暑さへの注意を呼びかけ、熱中症にならないよう行動をとることを促すための情報です。令和3年度から全国で運用されており、予測される日の前日夕方または当日早朝に都道府県ごとに発表されます。

熱中症警戒アラートが発表されている日の行動ポイント

- ①のどが渇く前にこまめに水分補給する
- ②涼しい服装にする
- ③昼夜を問わず、エアコン等を使用して部屋の温度を調整する
- ④外での運動は原則中止や延期をする
- ⑤熱中症のリスクが高い方(高齢者、子ども、持病のある方、障害者等)には身近な方から声掛けをする

コロナ禍は熱中症リスクが高まります!

現在、新型コロナウイルスの基本的な感染対策として、マスクの着用やこまめな換気などが求められています。しかし、夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用したり、換気により室内温度が上がると、熱中症になるリスクが高くなります。

○マスクについて
 屋外で人と十分な距離が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、適宜マスクを外すようにしましょう。また、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けるようにしましょう。

○換気について
 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を行う必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

外出時、少しでも体調に異変を感じたら・・・

速やかに涼しい場所に移動しましょう。人数制限等により室内の店舗等にすぐに入ることができない場合は、室外でも日陰や風通しの良い場所に移動しましょう。

日々の体温測定、健康チェックは新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症を防ぐ上でも大切です。体調が悪いと感じたときは、無理せず自宅で静養するようにしましょう。



経理マンが行く 対策



梅雨に入ったと思ったら、もう梅雨が明ける予想を氣象庁がしています。ある人によると日本の「梅雨」という、くりは無くなり、常に湿気のある気候に変わっていくと話していました。温暖化と共に少しずつ季節感が無くなっていくのは淋しいです。

さて、ジメジメと蒸し暑い日が続くと、もう、ゴキブリの登場です。夏にゴキブリを見たくないなら、春と秋の対策が効果的だそうです。例えば、春は「待ち伏せタイプ」の殺虫剤で侵入を阻止、秋は卵や幼虫を越冬させないよう徹底駆除。季節に合わせた撃退法と、ゴキブリのエサになる生ゴミやすみ家になりやすいダンボールを放置しないなどの日頃の対策で、ゴキブリの発生を随分と減らせます。1年の中で、夏がゴキブリをもっと活発に活動させるシーズンです。25℃を超えると繁殖も活発になり、卵を多く産むようになります。まずゴキブリに遭遇してしまったら、すばやく「殺虫スプレー」で撃退しましょう。そのために、殺虫スプレーはすぐ手に取れる場所や、ゴキブリをよく見る場所に置いておくのがポイントです。しまい込むといざという時に使えず、ゴキブリを逃してしまいます。逃げられたら何処かにいるので、余計不安で気持ち悪い。万が一逃げられた場合は「くん煙タイプ」の殺虫剤がおすすめです。部屋のすみずみまで殺虫成分が届くので、居場所のわからないゴキブリの退治に最適です。くん煙に含まれる殺虫成分によってゴキブリが異常行動を起こすことがあり、冷蔵庫の裏などから這い出てきて死んでいることも。また、見かけた場所は、「ゴキブリの通り道」かもしれません。次に出てきた時に退治できるように、「待ち伏せタイプ」の殺虫剤をスプレーしたり、「毒エサタイプ」の殺虫剤を置いたりして、罠を仕掛けておくのも効果的です。

その他にできるだけ繁殖させないということです。夏は繁殖が活発で、卵を産む頻度も多く、孵化までの期間も短くなるなど、大量発生危険が山ほどあります。「目の前に出てきたら対処すればいい」、なんて思っているうちに、ゴキブリは確実に増えています。繁殖させないために、「くん煙タイプ」の殺虫剤を、孵化する2~3週間後に、もう一度使います。卵の状態ではこのくん煙タイプは効きませんのであくまでも孵化してから使用してください。また、動きが活発だということは、罠にかかる可能性も高いという事です。ゴキブリを見かけた場所や水廻りなど潜んでいそうな場所に、「待ち伏せタイプ」の殺虫剤をスプレーしたり、「毒エサタイプ」の殺虫剤を置いたりする対策が有効です。どちらもスプレーするだけ、置いておくだけなので簡単ですね。

ゴキブリは主に、秋に生んだ卵か幼虫の状態を冬を迎え、寒い間は成長を止めじっとしています。翌年の春に暖かくなると成長を再開し、夏の活動期を迎えることとなります。翌年の夏にゴキブリに出くわさないようにするためには、越冬する前の秋の対策がとても重要なのです。またゴキブリは大腸菌などの菌を保有し、数ミリの隙間があれば入り込んできます。さらには夜行性で夜に活動しますので、日中は見ないだけで知らないうちに動き回り菌を振りまいていますので徹底的な駆除をしましょう。

